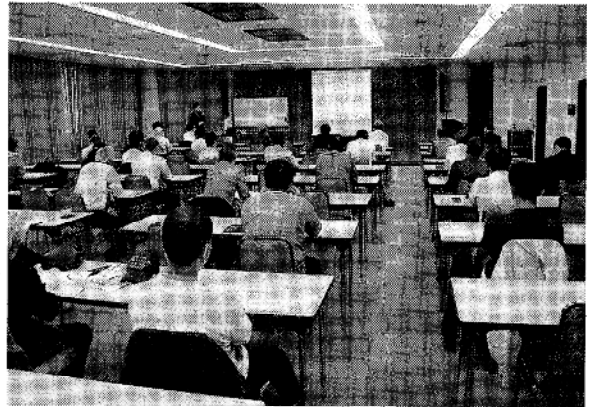


第13回鋼構造 セミナー開催

横座屈の理論学ぶ

広島鉄構会

広島県鉄構工業会
(理事長 山本泰徳・
ステントス社長)と日
本建築学会中国支部、
日本建築構造技術者協
会中国支部は3日、広



セミナーの様子

島市内の広島工業大学
広島校舎で第13回鋼構
造セミナーを開催し、
ファブリケーターや設
計事務所の構造設計者
を中心に約40人が参加
した。テーマは「鉄骨
梁の横座屈の理論と設
計方法」で、横座屈の

理論を学
び、横補剛
の設計に対
する理解を
深める狙
い。

セミナー
はマスクの
着用など新
型コロナウ
イルス感染
対策をして
開かれ、講
師は山西史朗・広島工
業大学助教と、日本建
築構造技術者協会中国
支部技術委員の2人が
務めた。

座屈とは、細長い鋼
材が垂直に力を受けた
場合に水平方向に曲が
るなど、力とは別の方

向に変形が表れる現
象。横向きに取り付け
られた鉄骨梁のH形鋼
は、曲げなどの力で部
分的な圧縮を受ける横
座屈が起きやすく、横
座屈が発生したH形鋼
は複雑に変形してしま
う。座屈は建物損傷な
どを生じる恐れがあ
り、横座屈を起こさな
いためには横補剛材が

取り付けられる。
セミナーでは始めに
「横座屈の理論体系」
について、鉄骨梁の横
座屈現象の分析、横座
屈荷重の解説がされ
た。次に、H形鋼梁の
断面算定を行う際に横
座屈を考慮して算定す
る許容応力度について
「告示式と鋼構造設計
規準の違いによる許容

曲げ応力度」を、それ
ぞれのデータを元に説
明がされた。最後に、
横座屈を起こさないた
めに使用する横補剛材
について、スラブの有
無によりホルトの抵抗
機構が異なることか
ら、ケースにより設計
時に固定するホルトを
少なくできることなど
が話された。